

平成26年度第2回鎌ヶ谷市図書館協議会会議録

1 開催日時：平成26年11月21日（金）午後2時～3時30分

2 開催場所：鎌ヶ谷市立図書館3階保育室

3 出席者

(1) 委員： 太田直美委員長 浜口貞美委員 伊藤眞由美委員
滝本はる恵委員 小茂田茂委員 稲垣麻衣子委員
山口勝巳委員

(2) 事務局： 石井生涯学習推進課長 石原主幹
三宅図書館長 米井主査 小林

(3) 傍聴人： なし

4 報告

平成26年度先進地視察（武蔵野プレイス）の結果報告

5 議題

○「鎌ヶ谷市立図書館運営に関する意見書」に対する取り組みの現状と今後の方向性について

6 審議内容

委員長： 会議の議事録署名委員は、浜口委員と稲垣委員にお願いしたい。

本日の議題は、平成26年3月6日付けで図書館長に提出した「鎌ヶ谷市立図書館運営に関する意見書」に対する取り組みの現状と今後の方向性についてである。この意見書では、図書館分館の充実を提案し、その中で生涯学習推進のための公民館づくりに分館を活性化させる視点を求めているところであるが、こうした観点に立ち10月23日に図書館協議会委員による先進地視察を行ったところである。については、議題に先立ち平成26年度先進地視察（武蔵野プレイス）に関して報告をお願いしたい。

委員： 視察先の武蔵野市立ひと・まち・情報創造館武蔵野プレイスは、中央線武蔵境駅のすぐ前にあり、委員6名と事務局3名で視察した。この施設は、建設されて3年目で、利用状況は、年間160万人、1日約5千人が利用している。図書館をはじめとして「生涯学習支援」「市民活動支援」「青少年活動支援」の機能を併せ持っており、人々の交

流が自然に生み出される「場」を提供することを目的に、地上3階、地下2階、地下3階の駐車場からなる建物であった。1階には、民間のコーヒーショップがあつて5時からはお酒も提供し、様々なイベントも企画されていて、イベントに必要な本は図書館が準備しているとのことである。さらに、施設の前には、広場があり、盆踊り等のいろいろなイベントが行われるなど、図書館利用者以外の人も集まってくるような場所であった。このように、青少年、子育て世代、シニア、現役世代それぞれが使い勝手がいいように工夫されていたが、特に、20歳以下の人だけが利用できる青少年向けのスペースが地下2階にあり、卓球、音楽、ダンス、料理等を行うための設備も備わり、職員が遠目で見守る中で高校生を中心に本当にたくさんの青少年たちが活用していた。青少年のための空間づくりを考えていくことは、鎌ヶ谷市のこれからのまちづくりにとても必要だと思う。市内には、それぞれの場所に公民館があるので、その活用がうまくなされていければと願っている。

また、武蔵野プレイスの運営面に関しては、いろいろな部署の職員、いろいろな立場の職員が連携することで職員意識の変化があつたとのことである。今までは、図書館の仕事、青少年の仕事、公民館の仕事だけをしてきたが、一緒に取り組むことになってきてどうするかといったときに、案内をしてくれた職員の言葉を借りると、職員が新しい環境を与えられて鍛えられているとのことであつた。

武蔵野プレイスのような機能をそのまま鎌ヶ谷市に持つてくることは難しいかもしれないが、この部分はできるのではないか、あのような発想で場所づくりをしようとか、これからの課題を視察させていただいたと思っており、そうした場所づくりを目指す鎌ヶ谷市であつてほしい。

委員長： 報告案件に続き、議題の「鎌ヶ谷市立図書館運営に関する意見書」に対する取り組みの現状と今後の方向性について事務局より説明をお願いしたい。

事務局： ……配布資料に基づき説明……

委員長： まず、資料の中の運営に関する意見(1)から(3)までについて、質問を受けることとしたい。

委員： (3)の「滞在型利用を意識した施設へ」に関して、武蔵野プレイスを視察して約1か月経つが、鎌ヶ谷市の予算や環境、施設などいろ

いろな問題がある中で、鎌ヶ谷市でも実現可能な取り組みはありそうか。

事務局： ハード面の建物に関しては厳しいものがあるが、ソフト面の本の提供やサービスの質という面で、どのような展開ができるか考えているところである。

委員： 武蔵野プレイスや昨年度視察した北区立中央図書館は、施設のにも素晴らしく、その運営には、非常に力を入れていた。鎌ヶ谷市でも、「鎌ヶ谷市を将来文化都市にする。さらに非常に特色あるまちにしたい。その一つが図書館だ」というようなしっかりした軸が必要だ。そこで、図書館にどのように予算を配分するのかといった市のスタンスや方向性について伺いたい。

委員長： 市の方向性として、現状維持なのか、拡大の幅があるのか。

事務局： 第3次実施計画では、図書館の本の増書に対する予算は、毎年15百万円の見込みであり、あとは施設の改善や改修に費やされてしまう。こうした中で、学校図書館司書を全校に配置するなど市民の利便性を優先していきたいと考えている。

委員： 11月9日放送のNHKの情報番組において、武蔵野プレイスや長野県小布施市の図書館など、機能を特化した図書館が紹介されていたが、鎌ヶ谷市としては、どのような図書館づくりをしていくのか。そこには、図書館をまちづくりの中にどのように位置付けていくのかという視点が大切だと思う。新たに大きな施設を作らなくても、今ある公民館等の施設をいかに活性化させていくかを、関係する職員や利用者がお互いにきめ細やかな知恵を出し合えば何かを生み出していけると思う。例年通りの取り組みの中で何とかしようと思っても限りがある。

委員長： 図書館分館の充実に関しては、この会議の場でいろいろな市民のアイデアや工夫を出し合い、それを積み上げて具現化していくことが必要だと思う。

委員： 先程の事務局の説明で、図書館がきらり鎌ヶ谷市民会館と近接しているので協力しながらやっていければとの発言があったが、一つの例として、来年1月に赤鬼のミュージカルがきらりホールで催されるが、図書館として集客面などでどのような協力ができるだろうかといった働きかけを今後できるのか、または可能性があるのかを伺いたい。

事務局： きらりホールでいろいろな催しが開催されているが、きらりホールの職員と調整した中でその催しに対して図書館で資料を提供するといった話は出ており、広げていける可能性はたくさんあると思う。き

らり鎌ヶ谷市民会館の中に市民活動推進センターや男女共同参画推進センターが入っているが、そちらでは、すでに図書館から団体貸出として資料を100～200冊単位で提供し、3か月単位で入れ替えるということもしている。

委員： 子供向けのイベント等があった時に、その前に読み聞かせをやるといった関わり方もでき、少しずつ積み重ねていくと良い協力体制で、お互いに切磋琢磨もし、勉強もし合うといったとても良い形になると思うので頑張ってもらいたい。

委員： 一つの方法として、各学校に前もってイベントのお知らせをして学校図書館司書の方に子供たちに本を読む機会を作ってください、という形で広めることができるのではないかな。

委員長： そのような連携はできると思う。情報の共有やそれをどうやって広げていくのか具体的なアイデアだと思う。

それでは、資料の中の（1）から（8）までに関してご意見を伺いたい。

委員： 例えば、シニアが関心を持っている事柄やニーズに対し、本の提供ができれば図書館に足を運んでもらえるのではないかな。

委員： 何かを教えるのではなく、例えばこういうことを調べるには、図書館にこのような本がありますよ、と繋いでいくのも一つの方法としてあるのではないかな。

委員長： 市民のニーズに合わせた特設コーナーや特別企画展について、何か予定はあるのかな。

事務局： テーマに即した展示は、月に1回、内容を変えて行っている。図書館の資料は、人気のある歴史や文学にかかわらず、すべての分野にわたっているので、どれをテーマにしても資料を提供できる状況にあるので幅広くやっていきたいと考えている。

委員： 先日、青少年問題に関する会議で専門の先生の話聞く機会があり大変勉強になった。そこで、その先生の本を手に入れたいと思ったが、会場に本は置かれていなかった。話を聞いただけでは100%心に受け止めることはできないので、本が置かれていればよかったと思った。

委員： 私たちは、おはなし会を開催するとその出典の本を並べ、図書館で借りられるからね、と子供たちに話している。そういう形でどんどん貸出をして、図書館にこんな本があるよ、あるいはリクエストしてくれれば取り寄せますよ、とPRしていけばいいのかなと思う。さらに個人的に講演会をやっている人たちにもそうしたPRをして貸し出しますよ、という形ができればいいのかなと思うが、一方で個人的

に収益を求めてやっている人たちに市側で手助けをしてよいのかとの不安もある。

委員： 作家による講演会等において本を販売することは、作家の収益につながることにはなるが、講演会で聞いた内容をすぐに自分のものとして手にしたいという思いもある。そこで、会場において図書館の本が借りられるといったことが行われたら良いと思うが、難しいか。

事務局： 現在の貸出システムでは、難しいところである。

委員： もし、紛失等の問題が出てくるのであれば、それよりも図書館に行けば借りられますからどうぞ、といったお知らせをしてあげることが大事だと思う。図書館に行ったときに「こんな本があった」「関連してこれも面白そうね」といったことのほうが、長い目で見ると大事なのかなと思う。先程のそれぞれの団体の収益になることについての話であるが、市民会館やきらりホールで主催、共催するものに関して協力していく姿勢をきちんと保っていければよいのではないか。

委員長： 学校行事でも教育委員会等が主催、共催で出所が明確になっていて子供たちのためになるものであれば協力している。

委員： 市立図書館2階のおはなし会を行っている部屋は、平日は子供が勉強する場所となっているが、武蔵野プレイスでは、おはなし会がないとき、マットを敷いてお母さんと赤ちゃんが本を開いたり、ハイハイしたりしていた。このように、場所の有効利用ということでは、使わないときオープンにしていってはどうか。また、鎌ヶ谷市でヤングアダルトの書棚を作っても、そのコーナーで若い人たちを見る機会がない。若者がもっとオープンなところに集える空間が必要だと思う。そういった空間、場づくりは、武蔵野プレイスを視察して大事だと思った。これは、図書館だけの問題ではないが大人が知恵を出していく必要があると思う。

委員： 現状の鎌ヶ谷市の建物に関して、いいアイデア、知恵をポンと出すことによって、その建物自体を何倍にもいいものに変えられることがある。ただ、お金をかければいいというものではなく、現状維持のものに対し、いかに知恵を集められるかが一つの発展ではないか。頑張ってもらいたい。

委員： 図書館における大人と子供に対するスペースの配分は、それぞれの稼働状況を見ながら検討するのも一つの方法としてあるのではないか。

委員長： 本日、いろいろな意見が出ましたが、実現可能なものを整理していただき、市として知恵と工夫のもとで取り組んでいただきたい。

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成27年 1月23日

署名人 浜口 貞美 印

署名人 稲垣 麻衣子 印